

# 適性型 I 表現力

注 意

- 1 問題は **I** のみで、6 ページにわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入すること。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受験番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

1 文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。

(\*印のついている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

文章1

「読む」という活動は、学習の様々な場面で出てきます。授業や宿題で、本や資料などを読む課題が出ます。このときみなさんは、どのように読んでいるでしょうか。「読む」といっても、「字面を追うこと」と「内容を理解すること」は異なります。

本や新聞、雑誌などの印刷物を「読む」ことに比べ、テレビ番組や映画などの映像を「見る」ことは、易しいことのように思えます。幼児は見方を教わらなくてもテレビを見て楽しんでいきます。しかしこれは、日常生活の中で「見る」ときのことです。

映像を見る際に、字面を追うようなことが起きていないでしょうか。簡単にできてしまうからこそ、「見る」ことから学ぶ際には注意が必要です。

「聞く」ことについても同様です。音声教材を聞く、講義を聞く、グループディスカッションで他のメンバーの話聞く状況じょうきょうを思い浮かべてみて下さい。字面を追うような「聞き流し」が起きていないでしょうか。心地良い音がただ流れているとして気に留めない、あるいは、まるでどこか外国の\*雑踏ざつたつの中なかにいるように、何を言っているのかわからないのでそのまま放置するなど。

ではどうしたら、そこから学べるのでしょうか。課題として出た文章、あるいは教科書のようなテキストを読む場合、いくつかのことを心がけることによって、理解を深めることができます。

まず読み始める前に、なぜこの本や文章を読むのか、目的をはっきりさせ、そこから得られることを予想すること。そしてそれらをメモの形で書き出しておくことです。

読んでいる最中には、そこに書いてあることは本当か、なぜこのようにことを言っているのだろうと、読んでいる内容について疑問を持つこと、\*批判的に読むことです。その中には情報源を評価することも含まれます。

読んだ後には、全体の内容をまとめてみる。その際、自分の言葉で置き換えてみる。友人や家族に説明するつもりで言い直してみることも役立ちます。読み始める前に書いた目的が達成できたかどうかを振り返ることも大切です。

見ること、聞くことの内容を理解し、深く学ぶためのポイントも同様です。

まず始める前に、なぜこの映像を見るのか、講義を聞くのか、目的を考える。見ている、聞いている最中には、そこに出てくることは本当か、なぜこのようなことを言っているのだろうとして、見る、聞く。終えた後には、全体の内容をまとめてみる。そして、始める前に書いた目的が達成できたかどうかを振り返る。

読むこと、見ること、聞くことからの学びを調整するのは、実は同じことなのです。ですから、その方法を知り、意識化し、習慣化することで、メタ認知スキル（自分自身を客観的にとらえる力）を発達させていくことができます。

講義や他者の話を聞く、資料映像を見る、本や資料を読む機会をとらえ、自分をコントロールできるようにしていくこと。三つに共通することは、それらへの構えを持ち、活動の前、最中、後において自己観察（モニタリング）することです。

またそれらは、考えるだけにとどめず、書き留める、文章にして書き出す、絵や図に描く、人に話すなどが効果的です。

誰かと話をしたり、言葉にしたり、文字にして書いたりすることで、自分が何を考えているのか、どうしたらよいかの考えが深まります。これを\*認知心理学では、「思考の外化」と呼んでいます。頭の中にあるもやもやとしたものをいったん頭の「外」に出すことによって整理し、自分で\*吟味したり、他者と共有したりできるような状態にする。

そしてそこからまた頭の「内」に戻し考える。これを「思考の内化」といいます。つまり頭の外と内との情報を上手に利用して\*相互作用を行うことによって思考を深めていくのです。

三つに共通することに、「書く」という活動が入っていたことに気づいたでしょうか。書くことはメタ認知を行う中で、特に重要な活動です。

資料を読む、映像を見る、講義を聞くなどの活動で、「書く」ことを

うまく活用していきましょう。学習前、学習している最中、学習後の各段階で、意識的に自分をモニタリングして、コントロールすることを、自己調整学習といえます。近年特に注目されている学習の考え方です。先に出てきた\*OECDの\*AARサイクルは、まさに自己調整学習の考え方です。

自己調整学習力を鍛えましょう。それは私たち自身が、学校において、生活において、様々なタイミングで自分自身を観察しながら、活動していくことです。そして、それが生涯学び続ける力になるのです。

（美馬のゆり「AIの時代を生きる」より）

## 〔注〕

雑踏…多数の人でこみあうこと。ひとごみ。

批判的…ものごとの良し悪しを判定すること。

認知心理学…記憶や思考といった心の機能を研究する学問。

吟味…ものごとをよく調べたり内容を味わうこと。

相互作用…おたがいに働きかけること。

OECD…経済成長、貿易の自由化、途上国支援などを目的とした国

際的な組織。

AARサイクル…OECDが発信している学習をするための考え方。

日本では、勉強というところ、本を読んだり、授業を受けたり、\*インプットをたくさんすることだと考える人が多いようです。でも、インプットするだけでは、なかなか身につきません。インプットしたものを、いったん\*アウトプットすることで、自分のものになるのです。アウトプットとは、自分の中から外に出すこと。つまり、話すことや書くことです。

脳科学でも、インプットのみ学習より、インプットにアウトプットを足す場合の方が、情報が脳内に整理され、理解が深く、長く記憶に残るとされています。

学生を2組のグループに分けて、同じテレビ番組を観てもらいます。内容を覚えてもらって翌日テストし、2組の成績を比べるという実験がありました。

片方のグループには「きみたちには特別にもう一回観せてあげましょう」と言って、もう一度そのテレビ番組を観せます。もう片方のグループは、テレビ番組を観るのは一度きりですが、その代わりに、観た内容をその場で一人ずつ話してもらいます。

翌日のテストでは、どちらのグループが勝つでしょうか。一度しか番組を観なかったけれども、その場で内容を話したグループの方が良い成績をとりました。

世界中で同じような脳科学の実験が行われていますが、2回観たグ

ループよりも、1回しか観ずに内容を話したグループの方が平均30パーセントから50パーセント良い成績を収めているそうです。

つまり、同じ情報を何度もインプットするより、アウトプットすることで身につきやすくなるということは、科学的にも証明されているのです。

僕は、何か面白いことがあると、学長室の隣にある秘書室に行って、「こんなことがあったぞ」と聞いてもらいます。人に話すことによって、自分の頭の中が整理されます。ある会社のトップだった方とお話ししたことがあります。面白そうだなと思った人がいたらすぐ会いに行つて、聞いた話を周囲の人たちに話すようにしているということでした。とても\*博識な方でしたが、そんなところに\*秘訣があるのだなと思つたのを覚えています。

よく「日記帳に書いてもいいですか?」と聞かれるのですが、できれば誰かに聞いてもらったり、ブログやSNSに書いてみることをおすすめします。

日記帳は、基本的に、自分以外は誰も読みません。すると人間の脳は「これは誰にも読まれないな。ちょっとくらい\*辻褄が合わなくてもかまわないな」と思って、無意識のうちに手抜きをします。でも、誰かに読まれるかもしれないと思うと、あほなことは書けんなと思って、整理のレベルを上げようとするのです。

ノートやメモをとって、一週間くらい経ってから見直すと、自分の字

なのに、何が書いてあるのかよくわからないという経験はありませんか。でも友だちにノートを貸してあげなければと思っていたら、そんなことはないはずです。話の前後が合わなかったり、論理が\*飛躍ひやくしているところがあつたら、それではおかしいから直そう、というふうになります。

明日、恋人こいびとが家に遊びに来ることになったら、一所懸命いっしょけんめい、部屋をきれいに掃除そうじしますよね。でも誰も訪ねてくる予定がなかったら、ちよつとくらい散らかっていてもいいか、見えないところはサボっておこうというふうになるでしょう。みんなの前で話したり、ブログやSNSに書くのは、恋人が来る前日の掃除と同じです。自分しか読まない日記やメモに書くのは、誰も訪ねてこない部屋の掃除と同じです。

SNSが禁止されているという人は、誰かに手紙を書いてもいいですし、家族や友達に聞いてもらったり、みんなの前で話してもかまいません。SNSはコミュニケーションツールのひとつに過ぎないので、どんな形であれ、誰かに伝えるということが重要です。

誰かに伝えようとする、わかつたつもりになっていたのに、うまく説明できないことがきつとあると思います。その場合は、もう一度調べてみます。この漢字は正しいかな。用語を正しく使えているかな。そう思ったなら、辞書や辞典で調べてみることです。その作業でより情報は整理され、記憶され、知識は自分のものになって、自由に使えるようにな

ります。

(出口治明「なぜ学ぶのか」より)

#### 〔注〕

インプット…入力すること。ここでは知識を学ぶことや吸収すること  
をいう。

アウトプット…出力すること。ここでは学んだ知識を元に表現すること。

博識…ひろくものごとを知っていること。

秘訣…効果的な手段、手立て。

辻褄…ものごとの正しいすじみち。

飛躍…正しい順番ではなく先に進むこと。

〔問題1〕 **文章1** ―線「三つに共通することは、それらへの構えを

持ち、活動の前、最中、後において自己観察（モニタリング）  
することです」とありますが、三つの活動の各段階で心がけた  
方が良いことは何ですか。それを説明した次の文の「A」  
〜「C」にあてはまる言葉を本文中のことばを使って、指  
定の字数で答えなさい。（句読点や記号もそれぞれ字数に数え  
ます。）

〈活動の前〉

・三つの活動において、「A 十字以内」こと。

〈活動の最中〉

・内容について「B 十字以内」に読んだり、見たり、聞いたり  
すること。

〈活動の後〉

・全体の内容を言いなおすことや、「C 二十字以内」を振り返る  
こと。

〔問題2〕 **文章2** ―線「自分しか読まない日記やメモに書くのは、

誰も訪ねてこない部屋の掃除と同じです」とありますが、イン  
プットした情報をどうすることを言っているのですか。本文  
中のことばを使って四十五字以内で書きなさい。（句読点や記  
号もそれぞれ字数に数えます。）

〔問題3〕

**文章1**と**文章2**のそれぞれの内容をふまえて、生涯学び  
続ける力を身につけるためにはあなたは何をすることが大切  
だと考えますか。

**文章1**と**文章2**、それぞれの要点にふれ、あなたの考え  
を四百字以上、四百四十文字以内で適切にまとめなさい。  
ただし、次の「条件」と「きまり」にしたがうこと。

〔条件〕 次の二段落構成にすること。

- ① 第一段落で**文章1**と**文章2**、それぞれの要点をまとめること。
- ② 第二段落で「①」をふまえ、生涯学び続ける力を身につけるため  
にどうするべきか、あなたの考えと、そのように考えた根拠・理  
由を書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行がえは、段落をかえるときだけとします。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのます目は、字数として数えません



